

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 2 月 21 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890300266
事業所名	グループホーム岩松
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	松崎 由紀
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 6 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1.明るい雰囲気の中で楽しいいきいきとした暮らしを大切にします。 2.家族や地域とのつながりを築き、暮らしやすい環境づくりをします。 3.本人の意思を尊重し、その人らしさを大切に、共に歩みます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1.ご家族様に利用者様の近況を報告し、ご家族様に安心して頂ける。 一請求書を送付する際に、イベント時の利用者様の写真や近況をお伝えするお手紙を同封した。可能であるご家族様に対してSNS等で画像や動画、近況をお伝えした。 2.全職員が利用者様への人生の先輩ということを忘れず、介助や会話をする時にも尊敬の気持ちを持って接する。 一定期的に接遇研修を受けた。ミーティング等で人権や尊敬について学んだ。不適切な言葉がけをしていた際は職員間で注意し合い改善している。 3.地域の高齢者や認知症の方、その家族等への相談支援を行い、地域拠点としての役割を持つ。 一介護のことで気軽に相談に立ち寄って頂けるようポスター等を作成し、相談支援を行っていることを発信している。 4.典型的な記録にならないよう全職員が具体的な内容を記入していけるようにする。 一利用者様の発した言葉や表情等細かく記録に残し、誰が見ても情報が把握でき、次のケアにつなげていけるようにしている。記録の書き方、記録の重要性を理解し、良い記録が書けるようミーティング等で勉強会を行い学んでいる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>グループホームとしての歴史はあるが、現在の法人に経営移管されて2年足らずの事業所は、岩松川に面した場所に立地し、川に多くの鳥が飛来し、対岸に桜並木が見られるなど、自然豊かな環境に恵まれている。法人は、市内を中心に調剤薬局や介護サービス事業所などを幅広く展開している。移管前の建物に併設された医療法人と良好な関係が築かれ、管理者と介護リーダーの交代はあったものの、ほとんどの職員と利用者はそのまま引き継がれ、継続した環境で、利用者の穏やかな生活に繋がっている。准看護師の資格を持つ介護職員が多く、夜勤等の際に配置されている。また、事業所の玄関は別にあるものの、建物の1階には内科医院が併設され、医師が同じ建物の3階に居住していることもあり、24時間の医療連携体制が図られ、迅速な対応をしてくれるなど、利用者や家族、職員は安心を得られている。コロナ禍や感染対策が続くシナリオを抱える中においても、地域住民の協力を得ながら、秋祭りやハロウィンなどの地域行事に利用者と一緒に参加して交流をしたり、地域の清掃作業に協力をしたりするなど、利用者の活動の幅が広がるような取り組みが行われ、運営推進会議の参加メンバーから「事業所が明るくなり、雰囲気良かった」という意見が出されるなど、より良い評価にも繋がっている。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前に訪問し聞き取りを行う際やケアプランの見直しの際に意向を聞いている。また日々の生活の中で会話や表情から思いを伺ったり汲み取るよう留意している。	◎	/	○	入居前に、管理者等は自宅を訪問して、利用者や家族と面談を行い、希望や意向などの聞き取りをしている。また、入居後も、日々の生活の中で、利用者から新たな思いを聞くとともに、家族の来訪時や電話連絡時に、利用者から聞いた情報の確認のほか、意向などの聞き取りをしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日常生活の中で発する言葉や表情を伺い、何気ないつぶやきから、ご本人の思いを把握している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	計画作成時やご家族の訪問時、また電話連絡時にお話を伺っている。友人、知人の面会がある時は、昔のエピソードや思い出話を聞き取り話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護ソフトを活用し、気づきやご本人の言葉や行動を入力し情報を共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で利用者に関して気づいたこと等話し合い、ご本人の思いを把握するようにしている。前法人からの入居期間が長い利用者様に関しては、職員側の思い込みで関わってしまわない様、会話や表情で気づいたことを職員間で共有している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に家族や、可能である場合はこれまで利用していたサービスの関係者から情報を聞き取りを行っている。ご家族との関わりを大切に、本人について知る機会を増やしている。	/	/	○	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴やこだわりなどを聞き取りしている。また、これまで関わってきた関係機関の担当者や介護支援専門員などから、これまでのサービス利用の経過や生活状況などの情報を聞き、フェイスシートに記録して、職員間で共有している。さらに、新たな情報を利用者から聞くこともあり、申し送りノートなどに記載している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の気づきや状況変化、心身の状態を申し送りして把握できる様努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護ソフトの活用で、入居者様の体調・言動・過ごし方を記録し職員間の情報共有を行っている。体調の変化がある方については早急に情報の共有を行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話の中から本人の要望や必要な支援を把握し職員間で検討している。	/	/	△	計画作成担当者を中心に、日々の会話の中で、利用者から意見や意向を聞くとともに、意思の疎通が難しい利用者には、表情などから思いをくみ取るよう努めている。また、家族から電話連絡時にも意見や希望を聞くようにしているが、関係者を交えて、十分に課題や利用者の視点に立つてより良いサービスを検討するなど、チーム体制でアセスメントが行われることも期待される。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ユニット間で情報共有に努め、ご本人が穏やかに生活できるよう努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の意向をお聞きし、ご本人らしく生活できるよう目標を設定している。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	計画作成時には本人、ご家族にそれぞれご意向や要望、主治医の先生のご意見を反映できるよう作成している。	○	/	△	事前に、利用者や家族の意見や意向を聞き、主治医から指示やアドバイスをもらい、把握した情報をもとに、職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成しているが、個別性のある計画作成までには至っていない。一人ひとりの利用者が、より良く暮らすための課題や日々のケアのあり方などを関係者で話し合い、出された意見やアイデアを反映した個別性のある計画が作成されることを期待したい。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活していく中で重度化した利用者様へは、その人らしく生活できるような内容で支援計画を作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域行事への参加はできる範囲で行っているが、計画に盛り込まれてないこともある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護ソフトの記録を毎日実施し、共通認識できるよう努めている。	/	/	/	利用者一人ひとりの介護計画の内容は、ミーティングの中で職員に周知され、1階ユニットは1冊に計画がまとめてファイリングを行い、2階ユニットは、一人ひとりの個別ファイルに計画が綴じられ、職員は確認できるようになっているが、職員間の共有までには至っていない。事業所には、介護ソフトが導入され、介護記録の書き方の研修を実施して、利用者が発した言葉などを具体的に記載するような改善に努めているが、サービス実施記録(状況報告と支援内容)のみに留まり、計画に沿ったサービス内容の記録までは行われていない。今後は、計画に基づいたサービスが提供できるように、職員間で情報共有するほか、日々の支援に繋がる記録が残せるような工夫や取り組みが行われていくことを望みたい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	申し送り等で職員間で情報共有をし、支援状況や気づきを話し合い、日々の支援につなげている。	/	/	/	△
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画は短期目標を1ヵ月～6ヵ月に1回職員間で話し合いの場を持ち見直しをしている。	/	/	/	○
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回のミーティングで各利用者様の状態確認を行っている。	/	/	/	△
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご本人の心身状態に変化があった場合や入退院等があった場合は、随時ご家族、医療機関と相談し計画の見直しを行っている。	/	/	/	○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	通常は毎月1回ミーティングを行っている。緊急案件については、その都度勤務者で話し合い、他の職員にも申し送り情報共有している。	/	/	/	○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全員が率直な意見交換ができるよう努めている。毎月1回のミーティングはほぼ全員参加しており、時にグループに分かれて意見交換をして課題解決し、共通意識を持つよう心がけている。	/	/	/	△
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	職員の協力を得て、ほぼ全員参加で行っている。	/	/	/	○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	連絡ノート、PCの特記、申し送り、グループライン等で状態把握ができています。	◎	/	/	○
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様のつづやきに耳を傾け、やりたいこと、したいこと等希望がかなえられるよう努力している。	/	/	/	/
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服の選択、朝食のメニューの選択等日々の生活の中で自己決定の機会を増やすよう努力している。	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのベースや習慣を大切にしつつ、集団生活の中で穏やかに生活できるよう、声かけを行っている。ご本人が何かしようとした際は、まず見守り寄り添えるよう心がけている。	/	/	/	△
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日常の会話や、何かを一緒に行う事で笑顔になれるよう支援している。	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	必ずご本人と目を合わせてから声かけを行っている。日々の関わりの中で表情や発する声や言葉、体の動き等からご本人の気持ちを汲み取り支援している。	/	/	/	△
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	ミーティング等で人権や尊厳について学んでいる。日々の業務の中で言葉かけや態度に問題や気になる点があった場合はその都度注意しあっている。	◎	◎	○	研修の中で、人権や尊厳、プライバシーなどを学ぶとともに、月1回の職員ミーティングの中で、勉強会や話し合いを行い、職員は意識した言動を心がけた支援に努めている。居室の扉は、利用者の希望で開める場合もあるが、訪問調査日には、ほとんど居室の入り口が開放されている様子が見られた。また、居室の入室の際に、職員はノックや利用者へ声をかけてから、入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	訪室の際、入退室時には声をかけている。排泄時、オムツ交換時等、利用者様の立場に立ち、不安や羞恥心を抱かれることのないよう留意し支援している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室入室の際は声かきまたはノックをして一呼吸おいて入室している。退室する際もご挨拶をして退室している。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ミーティングや申し送りの際に個人情報漏洩がもたらす影響について再確認する機会を設けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	野菜の下処理やタオル等の洗濯物干し、洗濯物たたみ、消耗品の収納等を手伝ってもらっている。その際感謝の気持ちを伝えてお礼している。また懐かしいお話をお聞きし、年内行事や慣わしなど利用者様より教わっている。				職員は、利用者同士の関係性や相性を把握し、配席の考慮をしている。言い合いなどのトラブルが起こりそうな場合には、早期に職員が仲介するなど、未然に防ぐような対応をしている。また、仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるように、食事やレクリエーションの際には、隣や近くに座れるような配慮をしている。さらに、入居後の間もなく、落ち着いた利用者には、職員が付き添い、穏やかな声かけをしながら、廊下を歩行する利用者の様子を見ることができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	職員が利用者様同士の支え合いの声かけを行ったり、しづらなことをできる利用者様が手助けする等共同生活をすることで助け合いの大切さを理解していただけるような声かけをしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	◎	利用者様同士の関係性を把握し、日々生活する上で穏やかな雰囲気や保てるよう、皆が集う場面では座席の配慮をしたり、物事が理解しがたい利用者様や、難聴の為周りの状況が分からない方には職員が間に立ちフォローしている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者様双方の意見を尊重しつつ職員が仲裁に入っている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時に聞き取りを行いある程度把握している。後々分かってきたことやご本人から知れた情報があった時には情報を更新している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	新型コロナウイルスの状況により、面会の方法は変わるが前日までに電話で予約して頂き、毎日14時以降1日4組までの面会の実施をしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	新型コロナ感染予防対策において外出は控えているが、感染予防対策を行ったうえで季節を感じて楽しんで頂けるよう外出の機会を設けている。希望される場合、短時間の外出は相談により応じている。	×	△	△	コロナ禍や感染対策が続き、外出できない期間が続いていたが、感染対策を講じた上で、屋外に出て、外気浴をしたり、周辺を散歩したりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるようになってきた。また、秋祭りやハロウィンなどの地域行事に、利用者と一緒に参加することができた。さらに、事業所には、公用車が導入され、ドライブをして季節の花などを見に行けるようになり、利用者や家族に喜ばれている。管理者は、春に利用者と一緒に花見に行くことを考えている。事業所の玄関前は岩松川に面し、川に多くの鳥が飛来し、対岸に桜並木が見られるなど、自然豊かな環境にも恵まれており、事業所周辺を散歩したり、ドライブをしたりするなど、日常的な外出支援が行われていくことも期待される。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ感染予防対策により外部の支援協力を得ることはできていない。ご家族による必要な外出は感染予防をしたうえでやっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する研修を受講する機会を設けている。認知症の研修を受けている職員からアドバイスを受けたり、情報共有し理解に努めている。また行動心理変化の対応に苦慮する場合は、職員間で話し合いを行い、不安や混乱が軽減できるよう支援の工夫を行っている。				日々の日課として、口腔体操やラジオ体操、ボールを使用した体操を実施するなど、心身機能の維持や向上を図れるように取り組んでいる。また、利用者自身にできることは時間が掛ってしてもらい、職員は見守りなどの待つ介護を心がけている。さらに、利用者の状況に合わせた声かけを行い、利用者の力を引き出すことで、意欲の向上に繋がっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	日々様々な身体機能に関する状態観察を行い、変化に気づけるよう職員間で情報を共有している。状態の変化を主治医・協力医に相談し、アドバイスを頂いている。口腔体操やラジオ体操、ストレッチ、ボールやチューブを使った体操で健康づくりを行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場づくり、環境づくり等)	○	利用者様が率先して行っていることに対して危険を伴わない場合は見守りしている。やり方がわからなかったり、困っておられる時は必要な援助や声かけ、働きかけを行っている。声かけや関わり方を工夫しながら意欲に繋がるよう支援している。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者のできそうなこと、特技を職員間で把握し、利用者様がそれを発揮できるよう場面場面で役割分担をしている。				洗濯物干しやたたみをしたり、食事の際には、テーブル拭きや消毒をしたり、タマネギの皮剥きをするなど、職員は声をかけて、利用者にしてあげることや得意な役割を担ってもらい、張り合いや喜びに繋がるような支援に努めている。また、カラオケをしたり、地域の秋祭りやハロウィンなどのイベントに参加したりするなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	当施設付近で開催されるイベントがある時は、できる範囲で参加し、近隣住民の方とふれあい、楽しさを感じて頂いている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入居前の聞き取りや、ごごころの様子、職員間の情報収集等から、本人の好みやこだわりについて把握している。				食べこぼしなどの汚れや整容の乱れなどが見られた場合は、さりげなく声をかけてフォローをしたり、居室に移動して着替えてもらったりするなど、利用者のプライドを傷つけないことを大切に支援を心がけている。また、月1回訪問理美容に来訪してもらい、希望の髪型に整えてもらうことができている。中には、要介護度の高い、重度な状態もあり、多くの時間を居室で過ごす利用者も含め、起床時等に着替えてもらうなど、違和感のある装いや着衣、髪の手入れなどは見られなかった。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	衣服・持ち物については入居前にご本人のなじみの物を持参して頂くことが可能なことはお伝えしている。入後はご家族に連絡して用意して下さっている。髪型に関して外部から理美容師に来て頂き、ご本人の好みをお聞きして納得のいく髪型にしてもらっている。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定ができない利用者様については、職員がアドバイスしたり、一緒に選ぶなど利用者様が納得されるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事予定がある時は前もってお伝えし、おめかしをするという気持ちを尊重し支援している。また利用者様が楽しい気持ちで行事に参加できるよう状況に合わせた支援を心がけている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人が気づかずそのままになっている時でも職員が気づき、さりげなく整えたり保清するよう心がけている。食べこぼしや口周辺の付着等については自分で拭ける方にはティッシュペーパー等をお渡しして声かけてご自身で処理して頂いている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	希望があれば、ご家族に相談し希望に沿うようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご本人の好みに合った、脱着の際ご本人の負担にならないよう家族と相談して、脱着しやすい物を用意して頂き、身だしなみを整えられるよう支援しています。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事摂取、栄養、食事形態、嚥下、口腔ケアが個々の心身の状態に影響を及ぼす事を口腔ケアの研修を受け理解している。				調理専属の職員が1か月分の献立をまとめて立て、週1回買い出しに出かけ、1階にある厨房で一括して調理をしている。アレルギーの有無を入居時に確認するとともに、苦手な食材なども把握して、代替の食材を用意するなどの対応をしている。利用者の好みのメニューのほか、旬の食材や行事食などを取り入れて、楽しめるような季節感のある食事を提供している。建物の構造上もあり、利用者が生活を送るリビングと離れた2階ユニットに、調理の音や匂いなどは届かないこともあり、ホワイトボードに1日分の献立を記載して、職員は利用者説明をしている。タマネギの皮剥きなどが必要な場合には、2階のリビングに持ってきて、利用者に手伝ってもらったり、テーブルの消毒や拭いたりしてもらってることができている。食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、一人分ずつの食事がお盆に配膳された状態で利用者に提供され、職員は見守りや食事介助を行い、別々の時間帯に食事を摂るようになっている。高齢化や重度化に伴い、居室で食事介助を必要とする利用者も多く、数名の利用者のみがリビングなどに出て、食事を摂るに留まっている。行事食の際に、利用者と一緒に巻き寿司を巻いたり、たこ焼きを作ったり、おやつを作った際に、職員は利用者と一緒に食べることもある。日常的に、利用者が食事の一連のプロセスに関わり、食事を楽しむことができるような工夫した取り組みが行われるように、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	野菜の皮むきなど簡単な下処理は職員と一緒にやっている。日常の会話から季節の行事や旬の食材に合わせた献立を取り入れるようにしている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	季節・行事に合った献立を、職員と一緒に調理し、利用者様の得意だったことを思い出させることができ、意欲につなげて行けるよう支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時にご本人様、ご家族様から聞き取りにより把握し対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	○	利用者様の好みや希望をお聞きし、旬の食材を取り入れ、季節感を感じて頂けるよう工夫している。アレルギーや苦手なものがある方に関しては代替えにて提供している。グループホームの菜園で野菜を育て、生育を日々観察したものを収穫し食事に outputs しています。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	体調や嚥下状態によりメニューを変え、十分な栄養が摂れ、美味しく摂り取れる様配慮している。刻み食やミキサー食であっても彩を感じて頂けるよう工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯呑は個々の身体状況により持ちやすい物・食べやすい物を考慮し使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	現在食事介助が必要な方や声かけ・見守りが必要な方がおられる事と、職員の休憩確保の観点から同席して同時帯に食事を摂ることは困難である。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	キッチンが1階にある為、1階ユニットは調理の音や匂いを感じる事が出来る。構造上2階ユニットには調理の音や匂いは届かないが、本日のメニューを見ながら状況をお伝えすることはできる。話の中で食事をとても楽しみにされていることは伺える。	○		△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	毎食の摂取状況を把握し、不足している際は補助食品、清涼飲料水等で補給している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	3食の摂取量の確認を行っており、必要量が摂取できていない利用者様には、こまめに水分補給を行ったり、病状に合わせて食事の管理を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員間で糖尿病や心臓病のある利用者様の食事管理を行っている。今のところ栄養士のアドバイスは受けていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理台、調理器具、食器等はこまめに消毒している。食材は新鮮なものを使用し、無駄のないよう賞味期限内に使用するよう努めている。肉・魚類は適量を購入し小分けにして冷凍保存し使用している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科協力医の協力を得て指導して頂き、口腔ケアの必要性・重要性は十分理解できている。	/	/	/	職員は、口腔ケアの重要性を勉強会等で学び、理解をしている。毎食後とおやつ後に、職員は利用者へ声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。介助が必要な利用者の口腔内を、ケア後に確認することができているが、自分で歯磨きができる利用者の口腔内の確認まではできておらず、洗口液で汚れを確認するようにしている。隣接する歯科医院が協力医療機関で、定期的に訪問歯科診療を受診する利用者もあり、職員は歯科医や歯科衛生士に口腔ケアの方法や洗浄などを相談することができている。また、歯科医に口腔ケアの講師を務めてもらうなど、日常的に清潔な口腔ケアに活かしている。2年前に、「口臭がひどかった利用者もいるが、現在は改善されてきており、来訪者から、「事業所内の匂いが変わった」という声も聞かれる。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア後のチェックは職員が行い把握している。口の中の健康状態に問題が生じた場合は歯科協力医の訪問診療や受診可能な方は職員あるいはご家族様同行にて受診している。	/	/	○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診療・受診の際に歯科協力医医師・歯科衛生士よりアドバイスを受け、職員間で情報共有を行い日々支援を行っている。	/	/	/		
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	ご本人ができる場合は見守り、汚れが落ちてない等気づいた際は声かけし、ご自分でできない場合は職員が行っている。	/	/	/		◎
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	毎食後口腔ケアの声かけ・誘導・見守り・必要時介助を行っている。口腔内の異常を発見したり、ご本人の訴えがあった際は、ご家族に連絡し了承を得たうえで協力歯科医へ繋いでいる。	/	/	/		/
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	職員は勉強会・研修で学び理解に努めている。排泄の支援の際、自尊心に配慮した声かけを行っている。トイレでの排泄ができるよう排泄パターンを確認し声かけを行っている。	/	/	/	経管移行前から長期に入所している重度の利用者が多く、テープ型の紙おむつを使用し、定期的におむつ交換をしている利用者が数名いるものの、基本的に、事業所ではトイレで排泄できるよう支援している。一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握し、タイミングを見て、職員は声かけやトイレ誘導をしている。利用者の排泄状態に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の必要性を検討し、家族に説明の上で使用している。中には、こまめな声かけをすることにより、布パンツで過ごすことのできる利用者もいる。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘の原因や及ぼす影響は研修等で学んだり、協力医や看護師の資格を持った職員に助言を得て理解している。	/	/	/		
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表に記入し、申し送りで情報を共有している。	/	/	/		
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ご本人の状態により可能な方はトイレへ誘導している。利用者様お一人おひとりの排泄状況を正確に把握し、その方に適した支援を行っている。	◎	/	○		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給を行ったり、下剤の種類・使用方法等を医師や薬剤師に相談し改善に向けた取り組みをしている。	/	/	/		
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者様の羞恥心を考慮し、排泄ミスの軽減に努めている。排泄が近くなるタイミングでトイレ誘導を行うなどの支援を行っている。	/	/	/		
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	業者に情報を得たり、サンプルを頂きご本人に必要な種類のものを選択している。またご本人と相談できる場合は自尊心が傷つく事無いよう話し合い対応している。	/	/	/		
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	お一人おひとりの状況(体重の変化・緩下剤の使用・排泄量)によって適宜使い分けている。	/	/	/		
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給の声かけや、食事量の確認、日々行う体操等により排泄を促せるよう取り組んでいる。	/	/	/		
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴の予定はあらかじめ決めて、体調不良やご本人の希望により日程調整は随時行っている。入浴時間・温度に関してはご本人主体で行っている。	◎	/	○	職員の勤務体制の都合もあるが、週2回程度、午前中の時間帯に、利用者は入浴することができる。体調不良のほか、入浴の拒否がある場合には、時間帯や曜日を変更するほか、失禁等で汚染した場合には追加でシャワー浴をするなど、清潔保持に努めている。また、脱衣場や浴室に十分な広さが確保され、車いすの利用者も、シャワーチェアからリフトを使用して、安心安全に湯船に浸かることができている。さらに、利用者の希望に応じて、湯の温度や浴槽に浸かる時間など、柔軟に対応をしている。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ご本人がリラックスできるような声かけや雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/		
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご本人の「できること」「できないこと」把握し、「できること」はご本人にしてもらい、手の届かない部分やご希望がある場合は職員が支援している。	/	/	/		
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む方に関しては、ご本人の気持ちを尊重しつつ声かけを行うが、どうしても断りがある場合は時間をずらしたり、日程の変更を行うなど配慮している。	/	/	/		
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェック・体調確認を行い入浴の可否を見極めている。入浴後も体調確認を行い、水分補給を行っている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間は夜勤者が1・2時間おきに巡回を行い、気になる方は訪室回数を増やすなど睡眠状態を確認した後記録し、情報共有している。	/	/	/	以前から眠剤を服用している数名の利用者がいるものの、事業所では、生活リズムを整えて、安易に服薬に頼らない支援に取り組んでいる。また、日中の活動性を上げるために、体操や運動などを積極的に取り入れ、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。職員体制の不備により、現在は夕食時間が16時30分と早く、夕食後に、日勤の職員が更衣を手伝い、就寝準備をするようになっていることに、管理者はジレンマを感じ、職員が増員された際に、「早出や遅出の勤務体制を確保していきたい」と考えている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の行動や、夜間の睡眠状態を情報共有し、生活リズムを整える等検討し、夜間良眠できるよう取り組んでいる。眠れない時はゆっくりお話を聞くなどし、安心して眠りにつけるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	生活レベルの低下や、転倒リスクの観点からなるべく薬に頼らない支援、日中の過ごし方、環境整備の工夫等を行っているが、生活リズムのズレが起こっている場合は、協力医療機関の医師に相談し、処方等のアドバイスを頂く。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室の他にリビングにソファを置き、個々が自由に利用できるようにしている。またマッサージ機の使用も可能。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご本人の希望がある場合は電話で話せるよう支援している。手紙のやり取りもできるよう支援している。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人の要望がない場合でも声かけをして話す機会を作れるよう支援している。また動画をご家族様に送り、元気な姿を見て頂いている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	個人で携帯電話を持たれている利用者様は居室でゆっくり話して頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙や荷物が届いた際は、職員が送り主に電話をし、利用者様に取り継いで話して頂いている。聞こえづらい場合は職員が通訳を行い会話ができるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人が電話をかけることや、ご家族様からの電話や手紙を頂くよう改めてお願いはしていない。今後協力依頼をしていく必要がある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	金銭の所持・管理が出来なくなっても、生活の中で手元に金銭を持ち、使いたいときに使えることがご本人にとって安心できる事と職員は理解している。	/	/	/	/
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ禍において外出を控えている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	コロナ禍と人員不足の観点から買い物の外出が困難な状況にある為お金も所持していない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	入所時金銭所持については、トラブルの原因になる可能性を考慮し持ち込みはしていない。居室やご本人の衣服から所持金が見られた際は、ご本人と話した上で事業所でお預かりをしている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所時、金銭管理については事業所が行い、支払いが必要な場合は立替金より支払う事とし、所持金は持参しない旨をご家族・ご本人にご説明し理解してもらっている。立替金については毎月の請求書にて確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人のニーズに応えられるよう、ご家族とも連絡を取り合い、ご協力頂きながらご本人の希望に添えるよう柔軟な支援を心がけている。	○	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられているが、玄関先での家族との対面の面会に対応したり、家族と一緒に自宅に一時帰宅をしたりするなど、利用者や家族から出されたニーズには、可能な限り、柔軟に対応をしている。外部の病院受診なども、家族から希望が出された場合には、職員が同行支援などの対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には鉢植えの花や季節感のある手書きの看板を設置し、親しみを持って頂けるよう工夫している。	○	○	○	玄関前は岩松川に面し、鉢植えの花が置かれ、ひな人形が描かれたウェルカムボードを設置するなど、来訪者を出迎えてくれている。少しでも、家族等が気軽に来訪できるような雰囲気づくりをしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	利用者が作成した季節に応じた壁飾りをしたり、リビングにゆったりと座れるソファを置き、くつろぎのスペースを作っている。2階リビング窓から見下ろしたところに中庭があり、野菜や花を植え季節感を感じられる。	○	◎	○	事業所建物は、以前病院の入院施設を改修して使用しており、現在も外来診療が行われているため、1階ユニットのフロアには、居室のほかに、レントゲン室などの病院設備が配置されている。外来患者用のトイレと使い分けをするために、新たに1か所の車いす用のトイレが増設され、使用をしている。1階にあるリビングは外来待合の一角にあり、2階にあるリビングで、レクリエーションなどが行われている。また、殺風景にならないように、利用者手作りの牛鬼の貼り絵のほか、ペーパーフラワーで作ったひな人形の壁飾りが飾られるなど、利用者が季節を感じられるように工夫をしている。2階リビングは、3方がガラス戸に囲まれ、レースのカーテン越しに採光が入り明るく、ベランダや窓から、中庭の家庭菜園を眺めることができる。さらに、掃除が行き届き、各居室やリビングに小型の空気清浄機が設置されるなど、いやな臭いなどが発生しないような配慮も行われている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	部屋の窓は中庭に面しており、静かである。掃除、消毒、換気を行い、環境整備に努めている。午後からの日差しがきつ時はカーテンを引くなど配慮している。	○	○	○		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングやテーブルにストレスや緊張を軽減できる効果のある緑の植物を飾り、リラックスできる空間づくりを行っている。また季節ごとに工物品を作成し飾って楽しい雰囲気作りをしている。	○	○	○		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者一人ひとりが自由に過ごせる様、ご本人の思いを尊重した対応ができるよう心がけている。居室へ帰りたい等ひとりになりたいと思われる様子が伺えた際はさりげなく誘導している。	○	○	○		○
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時ご本人の馴染みの物や、大切にしている物を持参して頂き自由に使ってもらっている。	◎	○	○	居室には、エアコンやベッド、空気清浄機が設置されているほか、以前の病院で使用していた床頭台や間仕切りボード、タンスなどが置かれている。また、テレビが各居室に設置され、持参物のほか、レンタルで使用することもできる。利用者は、使い慣れた物などを持ち込むことができ、いすや時計、衣装ケースを持ち込んだり、家族からプレゼントされた花かごや写真を飾ったりするなど、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室ごとにネームプレートを貼り、個人で目印になるものをドア付近に設置している。自居室が分からなくなる利用者様に関してご本人が分かりやすい位置に名前を書いたポスターを貼っている。	○	○	○	○ ネームプレートが各居室のドアの上部に設置されているため、中には、分かりにくい利用者もあり、ドアの取っ手付近に大きく名前を表示したり、花やぬいぐるみなどを飾ったりするなど、目印を付けて、認識しやすいように工夫をしている。また、トイレには、分かりやすいように「便所」などの表記をしている。さらに、男性用の便器が設置され、使用している利用者もいる。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	湯呑、水が入った容器は居室の手の届く所にある。裁縫道具、大工道具、園芸用品は所定の場所にしまつてあり、必要時お出している。新聞、趣味の品はリビングに置いてあり、自由に使える環境にある。	○	○	○		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	弊害について理解はしているが入所時、入所後、日が経っても落ち着かれない利用者様がおられ、1か所利用者の安全優先の為に施錠している。今後落ち着かれたら鍵をかけない暮らしができるよう努める予定。	◎	◎	○	職員は、出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。1階にある事業所の玄関のほか、内科医院の玄関は、日中に自由に出入りできるようになっている。2階にある非常階段のみ、利用者の安全面を考慮して施錠をしているが、内階段の施錠は行われていない。また、帰宅願望のある利用者には、職員がゆっくり話を聞きながら、一緒に歩くなどの対応しており、訪問調査日にも、入居後間もなく、不穏な状況が続く利用者にも、職員が付き添い、廊下を行き来する様子を見ることできた。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	安全優先の為に施錠について望む家族はいない。契約時に鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っていない。当初は施錠はしていなかった。	○	○	○		
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	病歴・留意事項はアセスメントシートにて確認するよう努めている。また共有ノートや介護ソフトにて個々の状態を把握している。	○	○	○		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者の状態について、介護ソフトや共有ノートに記入し情報共有を行っている。勤務交代時に申し送りを行っている。日々の様子を介護ソフトの記録に記入し、情報共有している。	○	○	○		
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につながる等の努力をしている。	◎	心身状態の変化があった際は協力医に相談し支持を仰いでいる。異変時や救急時に迅速に対応できる様、普段より協力医・医療機関と良好な関係が持てるよう努めている。また合わせてご家族への連絡も行っている。	○	○	○		
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入所時、本人・家族より聴き取りを行い、ご希望の医療機関を受診できる様支援している。	◎	○	○		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご本人・ご家族の希望をお伺いしている。歯科等訪問診療医もご家族に説明し確認している。	○	○	○		
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の同意を得られる話し合いを行っている。	○	基本的には受診は本人・家族、スタッフ同行が望ましいが、ご家族のみ同行の受診を依頼することもあり、その際ご家族に情報を伝えており、受診後の結果報告を受けている。フタッフ同行の際は受診結果について、その都度互いに共有している。	○	○	○		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は情報提供を行い、本人の状態を伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	管理者・ケアマネが主に病院関係者と連絡をとり合いながら、随時家族とも連絡を取っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護職員は日々の気づきや状態を協力医に報告し、アドバイス・指示を頂いている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医に24時間いつでも連絡ができる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日健康チェック表にバイタルサイン測定と排便状況を記録し確認することで、体調の変化や早期発見ができ治療に繋げることができている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	お薬の処方があった際は利用者様お一人おひとりのお薬情報を全職員が目を通している。注意事項等は申し送り等で周知している。追加の処方があった際は服薬後の状態観察を行い、記録に残している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬剤管理指導のもと、薬剤師が処方薬をユニットごとにお薬ボックスにセットしている。誤薬防止については処方薬を小分け袋に各利用者の服薬時点ごとに入れていく。服薬時には名前、用法を読み上げ飲んで頂き服薬確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	本人の状態観察は全職員で行っており、状態の変化があった際は処方元医師に相談し調整している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化の段階ごとに本人家族と話し合い、要望意向や方針を共有している。				事業所では、看取り指針を整備したり、看取り加算を算定したりすることはしておらず、以前の療養病棟の入院患者を事業所の利用者として引き継ぎ、重度の利用者も多く、家族等の意向に沿って、看取り支援が行われている。また、状態に変化が生じた場合には、利用者や家族、主治医、協力医療機関、職員を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、准看護師の資格を持つ介護職員が多く、夜勤の際に配置をしている。加えて、建物の1階には内科病院が併設され、医師が同じ建物の3階フロアに居住していることから、24時間の医療連携体制が図られ、いつでも対応してくれるなど、利用者や家族、職員には安心感がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態変化時、重篤化状態時には、本人・家族、協力医療機関、薬剤師、職員が情報共有し、相談を重ね方針を決定している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思いや力量の把握に努め、話し合い、必要に応じ主治医のアドバイスを頂きながら、どこまでの支援ができるかを見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時及び、状態変化した場合に、主治医・家族を含めた話し合いの中で、グループホームでできる事・できない事の説明を行っている。ご家族にはご理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	今後起こりうる変化については、主治医や看護師より都度説明を受けており、いつでも連絡できるような体制をとっており、職員間で情報共有している。変化があれば、主治医と話し合いを行い、ご家族へ報告を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族に電話で状況・状態報告を行っている。対面での面会を希望される時は抗原検査を受けて頂いている。時には事業所より面会の依頼をすることもある。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的には学んでいないが、参考資料を基にミーティングの際に感染予防研修で学びの機会を設けている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症対策のマニュアルは作成しているが、日ごからの訓練はできていない。コロナ感染症発生を他の施設で経験した職員がおり、発生した場合の手順を理解している為感染予防の参考にしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行政や医療機関、テレビや新聞などから情報を入手し情報を共有している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるように支援している。	○	利用者様・職員は手洗いうがいはこまめに行っており、来訪者についてもマスク着用、消毒、来訪者名簿への記入等協力を頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ禍ではありますが気軽に面会して頂く毎週日面会の時間をとっており、気軽に面会して頂けるよう心がけている。状態変化だけでなく、折々で生活の様子をお伝えしている。イベント等で必要なものを持参して頂くなど協力を頂いている。	/	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、コロナの5類移行後も、感染対策で面会制限が継続され、家族を交えた活動や家族同士の交流の場の提供までは行われていない。管理者は、「今年の春に、現地で家族と待ち合わせて、花見をしたい」と考えていることもあり、家族との交流できる機会が増やしていけるような工夫や取り組みが行われていくことも期待される。少しずつ感染対策が緩和され、訪問調査月に玄関スペースでの対面の面会が可能になったばかりである。日常的に利用者の日々の暮らしの様子が家族に伝えられるように、SNSなどを活用して連絡を取り合う場合もあるが、半数程度の家族の利用に留まっている。管理者は、写真などを添えた便りや広報誌などの発行を検討しているが、実現までには至っていないため、引き続き取り組んでいくことも期待される。また、事業所の運営上の事柄や職員の異動などを運営推進会議の中で報告しているものの、会議に参加する家族は1名のみで留まっており、他の家族に報告することができていないため、全ての家族に報告をするなど、理解が得られるように周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。家族の来訪時や電話連絡時などを活用して、職員は積極的に声をかけて、気がかりなことなどを聞くようにしている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	新型コロナウイルス感染予防対策にて現在も面会制限を行っている状況で今年度ご家族を交えての行事は行っていない。	×	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	ご家族で可能な方はSNSで様子をお知らせしたり、年間行事の際の写真を送付するなど日常の様子をお知らせしている。	○	/	/		△
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居時、モニタリングにより本人の生活歴を把握し、家族との関係の理解に努め、必要事項を共有している。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	事業所の運営に関する事柄、出来事について一斉に文章等での報告はできていない。	×	/	/		△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	自立支援に向けて日々の支援を行っており、起こりうるリスクに関して職員間で話し合いを行い、ご家族に説明している。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族の来訪時や電話、メールにより気軽に話せる機会を作っている。また近況をお伝えしている。新型コロナウイルス感染予防対策により施設内でゆっくり面会して頂くことは現在できていないが、毎日午後より面会の時間を設けている。	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居時、契約の内容を具体的に説明し、理解、了承を得ている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去についてご本人・ご家族から申し出があった際、次の受け入れ先への情報提供等行いスムーズに移れる様支援している。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時に近隣の住民の方にご挨拶に伺い説明しご理解をいただいている。	/	/	◎	事業所として、令和5年度から自治会に入会し、地域住民の一員として関係性が深められるように取り組んでいる。秋祭りの際に、事業所に神輿の来訪があったり、ハロウィンの際に、保育園の園児が大勢集まり、利用者からお菓子をプレゼントしたりするなど、交流を楽しむことができている。また、地域アンケートから、「地域の清掃作業の際に、管理者に早朝から終了まで参加協力をしていただき、大変助かりました」などの感謝のコメントが寄せられている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあい、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナ禍で積極的な行事の参加はできていないが、近隣の保育園の行事に参加する。今年度より自治会へ入会し、地域住民として地域の行事に参加している。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	利用者様と地域との直接の関わりは今後の課題であるが事業所としてのご理解頂けている実感がある。また推進会議で来所頂いた際や、地域の行事に参加した際に地域の方々には温かく見守って頂いている。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	運営推進会議に参加して下さる方は気軽に立ち寄って下さる。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶を交わす程度で気軽に立ち寄り、日常的なおつきあいにまでは至っていない。今後の課題である。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	利用者様の日常的な活動の支援等までは働きかけることはできていない。新型コロナウイルス感染防止対策中の為ボランティアの受け入れもできていない。	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	理美容師に必要時来て頂き、散髪の支援を受けている。米・野菜・調味料など地域の商店で購入している。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	毎回地域の方が参加して下さり、利用者家族の方に声をかけて参加して頂いている。	×	/	△	事業所では、運営推進会議を対面で開催することができているものの、利用者の参加はなく、1名の家族の参加のみに留まっている。また、会議では、利用者の様子やサービスの実態などの詳しい報告を行い、会議で出された意見や提案を真摯に受け止めて実践に活かしているが、一部の家族の参加に留まっているため、会議の内容が家族に伝わっておらず、全ての家族に参加協力を呼びかけたり、終了後に会議録を送付したり、会議の意義や目的を周知するなど、理解が得られるような周知方法の工夫や取り組みが行われることも望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議において毎回利用者の生活の状況、グループホームの取り組みについてレジュメに沿って報告している。外部評価の内容について報告している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせてメンバーを増やすには至っていないが、来年度参加して頂けるようお願いしている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を事務所等に掲げ、理念に沿った行動ができるよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	利用者、家族、地域の人達に理念を改めて伝える必要がある。	×	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内研修に関しては基本全員でできるよう予定の設定をしている。自己研鑽による研修についても代表者の理解あり。	/	/	/	法人の規模が大きく、代表者が来訪する機会はほとんどないが、管理者は職員との個別面談を実施するほか、日頃から意見を聞くことができおり、管理者を通して、代表者に意見や要望等を伝えることができるようになっている。法人として、事業所の設備改修や備品購入に対応してくれたり、職員の資格取得等に全面的に協力してくれたりするなど、職員は「働きやすい環境である」と感じている。また、職員ミーティングの中で、勉強会を実施するなど、職員のスキルアップにも繋げている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	チームの方向性が同じになるよう取り組んでいる。現場で起こる様々な問題を取り上げミーティング等で研修を行っている。資格等取得のための研修を受ける際は勤務の調整を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	キャリアパスの導入、処遇改善加算・特定処遇改善加算及び賞与に関して、管理者が職員の就労能力を鑑み分配する仕組みとなっている。また年1回人事評価シートを全ての職員が記載し提出。管理者は、代表取締役が評価、職員は管理者が評価し昇給の基準としている。福利厚生についても、職員の職場環境における要望等は、管理者会議で報告し必要な事項については改善している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	異業種交流や同業者との交流や全国介護事業者連盟の参加によりネットワーク作りを行っている。職員への情報提供も管理者会議を通じて行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面談の機会を設け職員からの仕事や人に関する相談を受ける。(管理者・顧問)必要時代表取締役役に報告しストレス回避に向けて取り組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	現在は主に内部研修を行っており、毎月身体拘束廃止・虐待防止についての会議も行っており繰り返し学び理解を深めている。	/	/	○	2か月に1回、身体拘束や虐待の防止などの研修を実施するとともに、毎月行う職員ミーティングを活用して、職員間で不適切な言動などの話し合いをしている。気になる言動が見られた場合には、職員同士で相互に注意し合えるようになってきている。また、不適切な言動が見られた場合には、職員は管理者に報告し、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をするとともに、必要に応じて、職員間で話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送り時に日々のケアについて話し合いをしている。日常的に場面場面でケアについて振り返りその都度話し合うことを意識している。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	フロアの様子を観察し、疲労やストレスから不適切なケアに至っていないか注意を払っている。不適切なケアがみられた際は都度状況の確認をし傾聴している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的実施している身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会や研修会で学ぶ機会を設け、全員が理解できる様努めている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束になりうる不適切なケアに関係する場面があった際は、話し合いや皆で考える機会をもち改善している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	定期的実施している身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会やミーティングの際に点検の機会をもち、日常的にも行っている対応が虐待・身体拘束に当たらないか意識して業務についている。入所時にご家族様へ「身体拘束を行わないケアの取り組みをしている」事の説明は行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	資格取得・資格更新の際に学ぶ機会があるが、全スタッフへの周知はできていない為課題である。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センター、専門機関とはすぐに連携がとれる体制である。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員がいつでも学習できるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急処置のマニュアルは作成しているが、十分なものではない。また初期対応の訓練に関しては今後行って行く必要がある。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生による報告及び報告書作成・提出。提出時、事故の状況に関して、振り返り・検証等を行っている。職員間で検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個々の利用者のリスクについては、日々の申し送りやミーティング等で確認し事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルはあるが、対応は主に管理者が行っており、職員は行っていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	管理者が対応している。必要な際は市町にも相談・報告している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情が寄せられた際は、速やかに対応し、その後も良好な関係性が築けるよう慎重に対処している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	契約時に利用者・家族が意見・苦情・要望があれば遠慮することなく言って頂くようお願いしており、事業所としても何かお気づきの点があれば言っていただくより良い事業所にしていくに努めている。日頃からコミュニケーションがとれるよう心がけている。今後ご家族様に運営推進会議に積極的に参加して頂けるよう働きかける必要がある。	◎	/	○	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを図るように努め、意見や要望等を気軽に言い合える関係性ができてきている。利用者には、日々の会話の中で、意見を聞いたり、表情や言動からくみ取るように努めている。家族からは、電話やSNSの連絡手段を活用して、声をかけをすることができている。また、日常的に管理者は職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を伝えてもらうなど、出された意見を検討して、利用者本位の支援に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初にご説明した後は利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供は行っていないが、ご家族様と話す機会がある時々に遠慮なく申し出て頂くことをお伝えしている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	必要時対応できる体制あり。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的なミーティングの開催や、職員一人ひとりが意見や提案を言える環境づくりをしている。個別に意見を聞いたり、書面により問い、自由に意見を管理者に伝えることができる環境づくりをしている。利用者様本位の支援につながるよう改善に繋げている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	今後サービスの向上の為自己評価は必要。	/	/	/	サービスの評価結果や目標達成計画等は、運営推進会議の中で報告をしているが、会議に参加する家族は限られ、家族に周知を図ることまではできていない。今後は、目標達成に向けた取り組みの状況を会議の中で報告して、参加メンバーから意見をもらったり、会議の内容を全ての家族に報告したり、取り組み状況のモニターに協力してもらうなど、サービス評価の取り組みに対して、理解が得られるような工夫した取り組みが行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を行うことで、「できていないこと」「できていないこと」が明確になり、「できていないこと」を早急に改善することが必要。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	今回の外部評価を通じて運営推進会議で報告し今後の取り組みに繋げていきたい。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	今回、評価結果を踏まえ、目標達成計画を実践し成果について事業所及び運営推進会議にて報告していくようにする。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害対策マニュアル作成し周知している。				事業所では、様々な災害マニュアルを作成するとともに、年2回火災などの想定した避難訓練を実施している。川沿いある建物は、水害が想定されるハザードマップの対象区域にあり、水害の発生時には、建物の2階への垂直非難を想定している。また、避難訓練の様子を運営推進会議の中で報告しているものの、一部の家族の参加に限られ、重度の利用者も多くいるため、地域住民や家族の理解や協力が得られるように周知するとともに、会議を活用して、安心安全な取り組みを話し合ったり、家族や地域住民と合同訓練を実施したり、地域の防災訓練へ参加協力するなど、少しずつ地域との協力支援体制が構築されていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	×	災害時マニュアルの整備が必要。今後の課題。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	保安協会の定期点検を受けている。非常用食料や備品・物品類等の整備もする必要がある。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	災害時に備えての訓練等は、地区・近隣住民との連携が必要と考えているが、近隣住民も高齢化が進んでいる状況。運営推進会議を通して地域住民と相談している。	×	△	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の防災訓練があれば積極的に参加しネットワーク作りをしたいと思う。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症ケアについて研修の機会があったが、地域への発信はできていない。				グループホームとしての歴史はあるが、経営移管されて2年足らずで、コロナ禍や感染対策が続く、積極的な相談機能の広報啓発までには至っていない。今後、管理者は、「地域への相談機能等の発信に取り組んでいきたい」と考えている。また、法人では技能実習生の受け入れに積極的に協力するとともに、法人内の他の事業所等と協力をしながら、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と連携を図ることができている。今後は、地域の他の事業所等と連携して、地域活動を協働していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	隣接する協力医から問い合わせがあり、入所相談を受けることがある。また電話での問い合わせもあり相談支援を行っている。介護のことで気軽に相談に立ち寄って頂けるようポスター等を作成し、相談支援を行っていることを知っていただく取り組みをしている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	新型コロナウイルス感染症予防対策中であり地域の人が集う場所として解放、活用はできていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れてきていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	市のクリーンアップ運動に参加。年2回程度海ごみゼロウイークへの参加。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 2 月 21 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890300266
事業所名	グループホーム岩松
(ユニット名)	すみれ
記入者(管理者)	
氏名	松崎 由紀
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 6 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1.明るい雰囲気の中で楽しいいきいきとした暮らしを大切にします。 2.家族や地域とのつながりを築き、暮らしやすい環境づくりをします。 3.本人の意思を尊重し、その人らしさを大切に、共に歩みます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1.ご家族様に利用者様の近況を報告し、ご家族様に安心して頂ける。 一請求書を送付する際に、イベント時の利用者様の写真や近況をお伝えするお手紙を同封した。可能であるご家族様に対してSNS等で画像や動画、近況をお伝えした。 2.全職員が利用者様への人生の先輩ということを忘れず、介助や会話をする時にも尊敬の気持ちを持って接する。 一定期的に接遇研修を受けた。ミーティング等で人権や尊敬について学んだ。不適切な言葉がけをしていた際は職員間で注意し合い改善している。 3.地域の高齢者や認知症の方、その家族等への相談支援を行い、地域拠点としての役割を持つ。 一介護のことで気軽に相談に立ち寄って頂けるようポスター等を作成し、相談支援を行っていることを発信している。 4.典型的な記録にならないよう全職員が具体的な内容を記入していけるようにする。 一利用者様の発した言葉や表情等細かく記録に残し、誰が見ても情報が把握でき、次のケアにつなげていけるようにしている。記録の書き方、記録の重要性を理解し、良い記録が書けるようミーティング等で勉強会を行い学んでいる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>グループホームとしての歴史はあるが、現在の法人に経営移管されて2年足らずの事業所は、岩松川に面した場所に立地し、川に多くの鳥が飛来し、対岸に桜並木が見られるなど、自然豊かな環境に恵まれている。法人は、市内を中心に調剤薬局や介護サービス事業所などを幅広く展開している。移管前の建物に併設された医療法人と良好な関係が築かれ、管理者と介護リーダーの交代はあったものの、ほとんどの職員と利用者はそのまま引き継がれ、継続した環境で、利用者の穏やかな生活に繋がっている。准看護師の資格を持つ介護職員が多く、夜勤等の際に配置されている。また、事業所の玄関は別にあるものの、建物の1階には内科医院が併設され、医師が同じ建物の3階に居住していることもあり、24時間の医療連携体制が図られ、迅速な対応をしてくれるなど、利用者や家族、職員は安心を得られている。コロナ禍や感染対策が続くシナリオを抱える中においても、地域住民の協力を得ながら、秋祭りやハロウィンなどの地域行事に利用者と一緒に参加して交流をしたり、地域の清掃作業に協力をしたりするなど、利用者の活動の幅が広がるような取り組みが行われ、運営推進会議の参加メンバーから「事業所が明るくなり、雰囲気が良くなった」という意見が出されるなど、より良い評価にも繋がっている。</p>
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前に訪問し聞き取りを行う際やケアプランの見直しの際に意向を聞いている。また日々の生活の中で会話や表情から思いを伺ったり汲み取るよう留意している。	◎	/	○	入居前に、管理者等は自宅を訪問して、利用者や家族と面談を行い、希望や意向などの聞き取りをしている。また、入居後にも、日々の生活の中で、利用者から新たな思いを聞くとともに、家族の来訪時や電話連絡時に、利用者から聞いた情報の確認のほか、意向などの聞き取りをしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日常生活の中で発する言葉や表情を伺い、何気ないつぶやきから、ご本人の思いを把握している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	計画作成時やご家族の訪問時、また電話連絡時にお話を伺っている。友人、知人の面会がある時は、昔のエピソードや思い出話を聞き取り話し合うようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護ソフトを活用し、気づきやご本人の言葉や行動を入力し情報を共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で利用者に関して気づいたこと等を話し合い、ご本人の思いを把握するようにしている。前法人からの入居期間が長い利用者様に関しては、職員側の思い込みで関わってしまわない様、会話や表情で気づいたことを職員間で共有している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に家族や、可能である場合はこれまで利用していたサービスの関係者から情報を聞き取りを行っている。ご家族との関わりを大切に、本人について知る機会を増やしている。	/	/	○	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴やこだわりなどを聞き取りしている。また、これまで関わってきた関係機関の担当者や介護支援専門員などから、これまでのサービス利用の経過や生活状況などの情報を聞き、フェイスシートに記録して、職員間で共有をしている。さらに、新たな情報を利用者から聞くこともあり、申し送りノートなどに記載している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の気づきや状況変化、心身の状態を申し送りして把握できる様努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護ソフトの活用で、入居者様の体調・言動・過ごし方を記録し職員間の情報共有を行っている。体調の変化がある方については早急に情報の共有を行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話の中から本人の要望や必要な支援を把握し職員間で検討している。	/	/	/	△ 計画作成担当者を中心に、日々の会話の中で、利用者から意見や意向を聞くとともに、意思の疎通が難しい利用者には、表情などから思いをくみ取るよう努めている。また、家族から電話連絡時にも意見や希望を聞くようにしているが、関係者を交えて、十分に課題や利用者の視点に立つてより良いサービスを検討するなど、チーム体制でアセスメントが行われることも期待される。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ユニット間で情報共有に努め、ご本人が穏やかに生活できるよう努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の意向をお聞きし、ご本人らしく生活できるよう目標を設定している。	/	/	/	△ 事前に、利用者や家族の意見や意向を聞き、主治医から指示やアドバイスをもらい、把握した情報をもとに、職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成しているが、個別性のある計画作成までには至っていない。一人ひとりの利用者が、より良く暮らすための課題や日々のケアのあり方などを関係者と話し合い、出された意見やアイデアを反映した個別性のある計画が作成されることを期待したい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	計画作成時には本人、ご家族にそれぞれご意向や要望、主治医の先生のご意見を反映できるよう作成している。	○	/	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活していく中で重度化した利用者様へは、その人らしく生活できるような内容で支援計画を作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域行事への参加はできる範囲で行っているが、計画に盛り込まれてないこともある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護ソフトの記録を毎日実施し、共通認識できるよう努めている。	/	/	/	利用者一人ひとりの介護計画の内容は、ミーティングの中で職員に周知され、1階ユニットは1冊に計画がまとめてファイリングを行い、2階ユニットは、一人ひとりの個別ファイルに計画が綴じられ、職員は確認できるようになっているが、職員間の共有までには至っていない。事業所には、介護ソフトが導入され、介護記録の書き方の研修を実施して、利用者が発した言葉などを具体的に記載するような改善に努めているが、サービス実施記録(状況報告と支援内容)のみに留まり、計画に沿ったサービス内容の記録までは行われていない。今後は、計画に基づいたサービスが提供できるように、職員間で情報共有するほか、日々の支援に繋がる記録が残せるような工夫や取り組みが行われていくことを望みたい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	申し送り等で職員間で情報共有をし、支援状況や気づきを話し合い、日々の支援につなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画は短期目標を1ヵ月～6ヵ月に1回職員間で話し合いの場を持ち見直しをしている。	/	/	/	○ 入居して間もない時期には、暫定計画を作成して、利用者の状況により、1～3か月で介護計画の見直しをしている。その後は、短期目標の期間に合わせて、6か月に1回計画の見直しをしている。また、毎月行うミーティングで、利用者の状況を確認しているが、訪問調査日には、状態に変化が見られた利用者の記録のみの確認に留まり、モニタリング記録も確認することができなかったため、全ての利用者の確認状況やモニタリング記録が残るように、職員間で検討していくことを期待したい。さらに、退院後などの利用者の状態に変化が見られた場合には、家族や医師等の関係者を交えて話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回のミーティングで各利用者様の状態確認を行っている。	/	/	/	△
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご本人の心身状態に変化があった場合や入退院等があった場合は、随時ご家族、医療機関と相談し計画の見直しを行っている。	/	/	/	○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	通常は毎月1回ミーティングを行っている。緊急案件については、その都度勤務者で話し合い、他の職員にも申し送り情報共有している。	/	/	/	○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全員が率直な意見交換ができるよう努めている。毎月1回のミーティングはほぼ全員参加しており、時にグループに分かれて意見交換をして課題解決し、共通意識を持つよう心がけている。	/	/	/	○
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	職員の協力を得て、ほぼ全員参加で行っている。	/	/	/	○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	連絡ノート、PCの特記、申し送り、グループライン等で状態把握ができています。	◎	/	/	○ 朝夕の勤務交代時に申し送りを実施している。利用者の状況は、介護ソフトにパソコンで入力している介護記録の特記欄を職員に確認してもらい、日々の情報伝達は、グループLINEを活用して行われている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様のつづやきに耳を傾け、やりたいこと、したいこと等希望がかなえられるよう努力している。	/	/	/	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服の選択、朝食のメニューの選択等日々の生活の中で自己決定の機会を増やすよう努力している。	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのベースや習慣を大切にしつつ、集団生活の中で穏やかに生活できるよう、声かけを行っている。ご本人が何かしようとした際は、まず見守り寄り添えるよう心がけている。	/	/	/	○
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日常の会話や、何かを一緒に行う事で笑顔になれるよう支援している。	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	必ずご本人と目を合わせてから声かけを行っている。日々の関わりの中で表情や発する声や言葉、体の動き等からご本人の気持ちを汲み取り支援している。	/	/	/	○
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	ミーティング等で人権や尊厳について学んでいる。日々の業務の中で言葉かけや態度に問題や気になる点があった場合はその都度注意しあっている。	◎	◎	○	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	訪室の際、入退室時には声をかけている。排泄時、オムツ交換時等、利用者様の立場に立ち、不安や羞恥心を抱かれることのないよう留意し支援している。	/	/	/	○
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室入室の際は声かきまたはノックをして一呼吸おいて入室している。退室する際もご挨拶をして退室している。	/	/	◎	○
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ミーティングや申し送りの際に個人情報漏洩がもたらす影響について再確認する機会を設けている。	/	/	/	○

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	野菜の下処理やタオル等の洗濯物干し、洗濯物たたみ、消耗品の収納等を手伝ってもらっている。その際感謝の気持ちを伝えてお礼している。また懐かしいお話をお聞きし、年内行事や慣わしなど利用者様より教わっている。				職員は、利用者同士の関係性や相性を把握し、配席の考慮をしている。言い合いなどのトラブルが起こりそうな場合には、早期に職員が仲介するなど、未然に防ぐような対応をしている。また、仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるように、食事やレクリエーションの際に、隣や近くに座れるような配慮をしている。さらに、入居後の間もなく、落ち着かない利用者には、職員が付き添い、穏やかな声かけをしながら、廊下を歩行する利用者の様子を見ることができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	職員が利用者様同士の支え合いの声かけを行ったり、しづらなことをできる利用者様が手助けする等共同生活をすることで助け合いの大切さを理解していただけるような声かけをしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになつたり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)	◎	利用者様同士の関係性を把握し、日々生活する上で穏やかな雰囲気や保てるよう、皆が集う場面では座席の配慮をしたり、物事が理解しがたい利用者様や、難聴の為周りの状況が分からない方には職員が間に立ちフォローしている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者様双方の意見を尊重しつつ職員が仲裁に入っている。				
12	馴染みの人や場所との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時に聞き取りを行いある程度把握している。後々分かってきたことやご本人から知れた情報があった時には情報を更新している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	新型コロナの状況により、面会の方法は変わるが前日までに電話で予約して頂き、毎日14時以降1日4組までの面会の実施をしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	新型コロナ感染予防対策において外出は控えているが、感染予防対策を行ったうえで季節を感じて楽しんで頂けるよう外出の機会を設けている。希望される場合、短時間の外出は相談により応じている。	×	△	△	コロナ禍や感染対策が続き、外出できない期間が続いていたが、感染対策を講じた上で、屋外に出て、外気浴をしたり、周辺を散歩したりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるようになってきた。また、秋祭りやハロウィンなどの地域行事に、利用者と一緒に参加することができた。さらに、事業所には、公用車が導入され、ドライブをして季節の花などを見に行けるようになり、利用者や家族に喜ばれている。管理者は、春に利用者と一緒に花見に行くことを考えている。事業所の玄関前は岩松川に面し、川に多くの鳥が飛来し、対岸に桜並木が見られるなど、自然豊かな環境にも恵まれており、事業所周辺を散歩したり、ドライブをしたりするなど、日常的な外出支援が行われていくことも期待される。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ感染予防対策により外部の支援協力を得ることはできていない。ご家族による必要な外出は感染予防をしたうえでやっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する研修を受講する機会を設けている。認知症の研修を受けている職員からアドバイスを受けたり、情報共有し理解に努めている。また行動心理変化の対応に苦慮する場合は、職員間で話し合いを行い、不安や混乱が軽減できるよう支援の工夫を行っている。				日々の日課として、口腔体操やラジオ体操、ボールを使用した体操を実施するなど、心身機能の維持や向上を図れるよう取り組んでいる。また、利用者自身にできることは時間が掛ってしてもらい、職員は見守りなどの待つ介護を心がけている。さらに、利用者の状況に合わせた声かけを行い、利用者の力を引き出すことで、意欲の向上に繋がっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	日々様々な身体機能に関する状態観察を行い、変化に気づけるよう職員間で情報を共有している。状態の変化を主治医・協力医に相談し、アドバイスを頂いている。口腔体操やラジオ体操、ストレッチ、ボールやチューブを使った体操で健康づくりを行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場づくり、環境づくり等)	○	利用者様が率先して行っていることに対して危険を伴わない場合は見守りしている。やり方がわからなかったり、困っておられる時は必要な援助や声かけ、働きかけを行っている。声かけや関わり方を工夫しながら意欲に繋がるよう支援している。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者のできそうなこと、特技を職員間で把握し、利用者様がそれを発揮できるよう場面場面で役割分担をしている。				洗濯物干しやたたみをしたり、食事の際に、テーブル拭きや消毒をしたり、タマネギの皮剥きをするなど、職員は声をかけて、利用者にしてあげることや得意な役割を担ってもらい、張り合いや喜びに繋がるような支援に努めている。また、カラオケをしたり、地域の秋祭りやハロウィンなどのイベントに参加したりするなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	当施設付近で開催されるイベントがある時は、できる範囲で参加し、近隣住民の方とふれあい、楽しさを感じて頂いている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入居前の聞き取りや、ごごころの様子、職員間の情報収集等から、本人の好みやこだわりについて把握している。				食べこぼしなどの汚れや整容の乱れなどが見られた場合は、さりげなく声をかけてフォローをしたり、居室に移動して着替えてもらったりするなど、利用者のプライドを傷つけないことを大切に支援を心がけている。また、月1回訪問理美容に来訪してもらい、希望の髪型に整えてもらうことができている。中には、要介護度の高い、重度な状態もあり、多くの時間を居室で過ごす利用者も含め、起床時等に着替えてもらうなど、違和感のある装いや着衣、髪の手入れなどは見られなかった。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	衣服・持ち物については入居前にご本人のなじみの物を持参して頂くことが可能なことはお伝えしている。入所後はご家族に連絡して用意して下さっている。髪型に関して外部から理美容師に来て頂き、ご本人の好みをお聞きして納得のいく髪型にしてもらっている。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定ができない利用者様については、職員がアドバイスしたり、一緒に選ぶなど利用者様が納得されるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事予定がある時は前もってお伝えし、おめかしをするという気持ちを尊重し支援している。また利用者様が楽しい気持ちで行事に参加できるよう状況に合わせた支援を心がけている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人が気づかずそのままになっている時でも職員が気づき、さりげなく整えたり保清するよう心がけている。食べこぼしや口周辺の付着等については自分で拭ける方にはティッシュペーパー等をお渡しして声かけてご自身で処理して頂いている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	希望があれば、ご家族に相談し希望に沿うようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご本人の好みに合った、脱着の際ご本人の負担にならないよう家族と相談して、脱着しやすい物を用意して頂き、身だしなみを整えられるよう支援しています。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事摂取、栄養、食事形態、嚥下、口腔ケアが個々の心身の状態に影響を及ぼす事を口腔ケアの研修を受け理解している。				調理専属の職員が1か月分の献立をまとめて立て、週1回買い出しに出かけ、1階にある厨房で一括して調理をしている。アレルギーの有無を入居時に確認するとともに、苦手な食材なども把握して、代替の食材を用意するなどの対応をしている。利用者の好みのメニューのほか、旬の食材や行事食などを取り入れて、楽しめるような季節感のある食事を提供している。建物の構造上もあり、利用者が生活を送るリビングと離れた2階ユニットに、調理の音や匂いなどは届かないこともあり、ホワイトボードに1日分の献立を記載して、職員は利用者説明をしている。タマネギの皮剥きなどが必要な場合には、2階のリビングに持ってきて、利用者に手伝ってもらったり、テーブルの消毒や拭いたりしてもらってることができている。食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、一人分ずつの食事がお盆に配膳された状態で利用者に提供され、職員は見守りや食事介助を行い、別々の時間帯に食事を摂るようになっている。高齢化や重度化に伴い、居室で食事介助を必要とする利用者が多く、数名の利用者のみがリビングなどに出て、食事を摂るに留まっている。行事食の際に、利用者と一緒に巻き寿司を巻いたり、たこ焼きを作ったり、おやつを作った際に、職員は利用者と一緒に食べることもある。日常的に、利用者が食事の一連のプロセスに関わり、食事を楽しむことができるような工夫した取り組みが行われるように、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	野菜の皮むきなど簡単な下処理は職員と一緒にやっている。日常の会話から季節の行事や旬の食材に合わせた献立を取り入れるようにしている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	季節・行事に合った献立を、職員と一緒に調理し、利用者様の得意だったことを思い出すことができ、意欲につなげて行けるよう支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時にご本人様、ご家族様から聞き取りにより把握し対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのもの等を取り入れている。	○	利用者様の好みや希望をお聞きし、旬の食材を取り入れ、季節感を感じて頂けるよう工夫している。アレルギーや苦手なものがある方に関しては代替えにて提供している。グループホームの菜園で野菜を育て、生育を日々観察したものを収穫し食事に outputs しています。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	体調や嚥下状態によりメニューを変え、十分な栄養が摂れ、美味しく摂り取れる様配慮している。刻み食やミキサー食であっても彩を感じて頂けるよう工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯呑は個々の身体状況により持ちやすい物・食べやすい物を考慮し使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	現在食事介助が必要な方や声かけ・見守りが必要な方がおられる事と、職員の休憩確保の観点から同席して同時帯に食事を摂ることは困難である。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	キッチンが1階にある為、1階ユニットは調理の音や匂いを感じる事が出来る。構造上2階ユニットには調理の音や匂いは届かないが、本日のメニューを見ながら状況をお伝えすることはできる。話の中で食事をとても楽しみにされていることは伺える。	○		△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	毎食の摂取状況を把握し、不足している際は補助食品、清涼飲料水等で補給している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	3食の摂取量の確認を行っており、必要量が摂取できていない利用者様には、こまめに水分補給を行ったり、病状に合わせて食事の管理を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員間で糖尿病や心臓病のある利用者様の食事管理を行っている。今のところ栄養士のアドバイスは受けていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理台、調理器具、食器等はこまめに消毒している。食材は新鮮なものを使用し、無駄のないよう賞味期限内に使用するよう努めている。肉・魚類は適当な量を購入し小分けにして冷凍保存し使用している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科協力医の協力を得て指導して頂き、口腔ケアの必要性・重要性は十分理解できている。				職員は、口腔ケアの重要性を勉強会等で学び、理解をしている。毎食後とおやつ後に、職員は利用者へ声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。介助が必要な利用者の口腔内を、ケア後に確認することができているが、自分で歯磨きができる利用者の口腔内の確認まではできておらず、洗口液で汚れを確認するようにしている。隣接する歯科医院が協力医療機関で、定期的に訪問歯科診療を受診する利用者もあり、職員は歯科医や歯科衛生士に口腔ケアの方法や洗浄などを相談することができている。また、歯科医に口腔ケアの講師を務めてもらうなど、日常的に清潔な口腔ケアに活かしている。2年前に、「口臭がひどかった利用者もいるが、現在は改善されてきており、来訪者から、「事業所内の匂いが変わった」という声も聞かれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア後のチェックは職員が行い把握している。口の中の健康状態に問題が生じた場合は歯科協力医の訪問診療や受診可能な方は職員あるいはご家族様同行にて受診している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診療・受診の際に歯科協力医医師・歯科衛生士よりアドバイスを受け、職員間で情報共有を行い日々支援を行っている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	ご本人ができる場合は見守り、汚れが落ちてない等気づいた際は声かけし、ご自分でできない場合は職員が行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	毎食後口腔ケアの声かけ・誘導・見守り・必要時介助を行っている。口腔内の異常を発見したり、ご本人の訴えがあった際は、ご家族に連絡し了承を得たうえで協力歯科医へ繋いでいる。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	職員は勉強会・研修で学び理解に努めている。排泄の支援の際、自尊心に配慮した声かけを行っている。トイレでの排泄ができるよう排泄パターンを確認し声かけを行っている。				経営移管前から長期に入所している重度の利用者が多く、テープ型の紙おむつを使用し、定期的におむつ交換をしている利用者が数名いるものの、基本的に、事業所ではトイレで排泄できるよう支援している。一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握し、タイミングを見て、職員は声かけやトイレ誘導をしている。利用者の排泄状態に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の必要性を検討し、家族に説明の上で使用している。中には、こまめな声かけをすることにより、布パンツで過ごすことのできる利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘の原因や及ぼす影響は研修等で学んだり、協力医や看護師の資格を持った職員に助言を得て理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表に記入し、申し送りで情報を共有している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ご本人の状態により可能な方はトイレへ誘導している。利用者様お一人おひとりの排泄状況を正確に把握し、その方に適した支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給を行ったり、下剤の種類・使用方法等を医師や薬剤師に相談し改善に向けた取り組みをしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者様の羞恥心を考慮し、排泄ミスの軽減に努めている。排泄が近くなるタイミングでトイレ誘導を行うなどの支援を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	業者に情報を得たり、サンプルを頂きご本人に必要な種類のものを選択している。またご本人と相談できる場合は自尊心が傷つく事無いよう話し合い対応している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	お一人おひとりの状況(体重の変化・緩下剤の使用・排泄量)によって適宜使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給の声かけや、食事量の確認、日々行う体操等により排泄を促せるよう取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴の予定はあらかじめ決めて、体調不良やご本人の希望により日程調整は随時行っている。入浴時間・温度に関してはご本人主体で行っている。	◎		○	職員の勤務体制の都合もあるが、週2回程度、午前中の時間帯に、利用者は入浴することができる。体調不良のほか、入浴の拒否がある場合には、時間帯や曜日を変更するほか、失禁等で汚染した場合には追加でシャワー浴をするなど、清潔保持に努めている。また、脱衣場や浴室に十分な広さが確保され、車いすの利用者も、シャワーチェアからリフトを使用して、安心安全に湯船に浸かることができている。さらに、利用者の希望に応じて、湯の温度や浴槽に浸かる時間など、柔軟に対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ご本人がリラックスできるような声かけや雰囲気づくりを心掛けている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご本人の「できること」「できないこと」把握し、「できること」はご本人にしてもらい、手の届かない部分やご希望がある場合は職員が支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む方に関しては、ご本人の気持ちを尊重しつつ声かけを行うが、どうしても断りがある場合は時間をずらしたり、日程の変更を行うなど配慮している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェック・体調確認を行い入浴の可否を見極めている。入浴後も体調確認を行い、水分補給を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間は夜勤者が1・2時間おきに巡回を行い、気になる方は訪室回数を増やすなど睡眠状態を確認した後記録し、情報共有している。	/	/	/	以前から眠剤を服用している数名の利用者がいるものの、事業所では、生活リズムを整えて、安易に服薬に頼らない支援に取り組んでいる。また、日中の活動性を上げるために、体操や運動などを積極的に取り入れ、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。職員体制の不備により、現在は夕食時間が16時30分と早く、夕食後に、日勤の職員が更衣を手伝い、就寝準備をするようになっていることに、管理者はジレンマを感じ、職員が増員された際に、「早出や遅出の勤務体制を確保していきたい」と考えている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の行動や、夜間の睡眠状態を情報共有し、生活リズムを整える等検討し、夜間良眠できるよう取り組んでいる。眠れない時はゆっくりお話を聞くなどし、安心して眠りにつけるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	生活レベルの低下や、転倒リスクの観点からなるべく薬に頼らない支援、日中の過ごし方、環境整備の工夫等を行っているが、生活リズムのズレが起こっている場合は、協力医療機関の医師に相談し、処方等のアドバイスを頂く。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室の他にリビングにソファを置き、個々が自由に利用できるようにしている。またマッサージ機の使用も可能。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご本人の希望がある場合は電話で話せるよう支援している。手紙のやり取りもできるよう支援している。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人の要望がない場合でも声かけをして話す機会を作れるよう支援している。また動画をご家族様に送り、元気な姿を見て頂いている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	個人で携帯電話を持たれている利用者様は居室でゆっくり話して頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙や荷物が届いた際は、職員が送り主に電話をし、利用者様に取り継いで話して頂いている。聞こえづらい場合は職員が通訳を行い会話ができるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人が電話をかけることや、ご家族様からの電話や手紙を頂くよう改めてお願いはしていない。今後協力依頼をしていく必要がある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	金銭の所持・管理が出来なくなっても、生活の中で手元に金銭を持ち、使いたいときに使えることがご本人にとって安心できる事と職員は理解している。	/	/	/	/
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ禍において外出を控えている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	コロナ禍と人員不足の観点から買い物の外出が困難な状況にある為お金も所持していない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	入所時金銭所持については、トラブルの原因になる可能性を考慮し持ち込みはしていない。居室やご本人の衣服から所持金が見られた際は、ご本人と話した上で事業所でお預かりをしている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所時、金銭管理については事業所が行い、支払いが必要な場合は立替金より支払う事とし、所持金は持参しない旨をご家族・ご本人にご説明し理解してもらっている。立替金については毎月の請求書にて確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人のニーズに応えられるよう、ご家族とも連絡を取り合い、ご協力頂きながらご本人の希望に添えるよう柔軟な支援を心がけている。	○	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられているが、玄関先での家族との対面の面会に対応したり、家族と一緒に自宅に一時帰宅をしたりするなど、利用者や家族から出されたニーズには、可能な限り、柔軟に対応をしている。外部の病院受診なども、家族から希望が出された場合には、職員が同行支援などの対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には鉢植えの花や季節感のある手書きの看板を設置し、親しみを持って頂けるよう工夫している。	○	○	○	玄関前は岩松川に面し、鉢植えの花が置かれ、ひな人形が描かれたウェルカムボードを設置するなど、来訪者を出迎えてくれている。少しでも、家族等が気軽に来訪できるような雰囲気づくりをしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	利用者が作成した季節に応じた壁飾りをしたり、リビングにゆったりと座れるソファを置き、くつろぎのスペースを作っている。2階リビング窓から見下ろしたところに中庭があり、野菜や花を植え季節感を感じられる。	○	◎	○	事業所建物は、以前病院の入院施設を改修して使用しており、現在も外来診療が行われているため、1階ユニットフロアには、居室のほかに、レントゲン室などの病院設備が配置されている。外来患者用のトイレと使い分けをするために、新たに1か所の車いす用のトイレが増設され、使用をしている。1階にあるリビングは外来待合の一角にあり、2階にあるリビングで、レクリエーションなどが行われている。また、殺風景にならないように、利用者手作りの牛鬼の貼り絵のほか、ペーパーフラワーで作ったひな人形の壁飾りが飾られるなど、利用者が季節を感じられるように工夫をしている。2階リビングは、3方がガラス戸に囲まれ、レースのカーテン越しに採光が入り明るく、ベランダや窓から、中庭の家庭菜園を眺めることができる。さらに、掃除が行き届き、各居室やリビングに小型の空気清浄機が設置されるなど、いやな臭いなどが発生しないような配慮も行われている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	部屋の窓は中庭に面しており、静かである。掃除、消毒、換気を行い、環境整備に努めている。午後からの日差しがきつ時はカーテンを引くなど配慮している。	○	○	○		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングやテーブルにストレスや緊張を軽減できる効果のある緑の植物を飾り、リラックスできる空間づくりを行っている。また季節ごとに工作物を作成し飾って楽しい雰囲気作りをしている。	○	○	○		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者一人ひとりが自由に過ごせる様、ご本人の思いを尊重した対応ができるよう心がけている。居室へ帰りたい等ひとりになりたいと思われる様子が伺えた際はさりげなく誘導している。	○	○	○		○
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時ご本人の馴染みの物や、大切にしている物を持参して頂き自由に使ってもらっている。	◎	○	○	居室には、エアコンやベッド、空気清浄機が設置されているほか、以前の病院で使用していた床頭台や間仕切りボード、タンスなどが置かれている。また、テレビが各居室に設置され、持参物のほか、レンタルで使用することもできる。利用者は、使い慣れた物などを持ち込むことができ、いすや時計、衣装ケースを持ち込んだり、家族からプレゼントされた花かごや写真を飾ったりするなど、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室ごとにネームプレートを貼り、個人で目印になるものをドア付近に設置している。自居室が分からなくなる利用者様に関してご本人が分かりやすい位置に名前を書いたポスターを貼っている。	○	○	○	○ ネームプレートが各居室のドアの上部に設置されているため、中には、分かりにくい利用者もあり、ドアの取っ手付近に大きく名前を表示したり、花やぬいぐるみなどを飾ったりするなど、目印を付けて、認識しやすいように工夫をしている。また、トイレには、分かりやすいように「便所」などの表記をしている。さらに、男性用の便器が設置され、使用している利用者もいる。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	湯呑、水が入った容器は居室の手の届く所にある。裁縫道具、大工道具、園芸用品は所定の場所にしまってあり、必要時お出している。新聞、趣味の品はリビングに置いてあり、自由に使える環境にある。	○	○	○		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	弊害について理解はしているが入所時、入所後、日が経っても落ち着かれない利用者様がおられ、1か所利用者の安全優先の為に施錠している。今後落ち着かれたら鍵をかけない暮らしができるよう努める予定。	◎	◎	○	職員は、出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。1階にある事業所の玄関のほか、内科医院の玄関は、日中に自由に出入りできるようになっている。2階にある非常階段のみ、利用者の安全面を考慮して施錠をしているが、内階段の施錠は行われていない。また、帰宅願望のある利用者には、職員がゆっくり話を聞きながら、一緒に歩くなどの対応をしており、訪問調査日にも、入居後間もなく、不穏な状況が続く利用者にも、職員が付き添い、廊下を行き来する様子を見ることできた。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	安全優先の為に施錠について望む家族はいない。契約時に鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っていない。当初は施錠はしていなかった。	○	○	○		
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	病歴・留意事項はアセスメントシートにて確認するよう努めている。また共有ノートや介護ソフトにて個々の状態を把握している。	○	○	○		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者の状態について、介護ソフトや共有ノートに記入し情報共有を行っている。勤務交代時に申し送りを行っている。日々の様子を介護ソフトの記録に記入し、情報共有している。	○	○	○		
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につながる等の努力をしている。	◎	心身状態の変化があった際は協力医に相談し支持を仰いでいる。異変時や救急時に迅速に対応できる様、普段より協力医・医療機関と良好な関係が持てるよう努めている。また合わせてご家族への連絡も行っている。	○	○	○		
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入所時、本人・家族より聴き取りを行い、ご希望の医療機関を受診できる様支援している。	◎	○	○		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご本人・ご家族の希望をお伺いしている。歯科等訪問診療医もご家族に説明し確認している。	○	○	○		
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の同意を得られる話し合いを行っている。	○	基本的には受診は本人・家族、スタッフ同行が望ましいが、ご家族のみ同行の受診を依頼することもあり、その際ご家族に情報を伝えており、受診後の結果報告を受けている。フタッフ同行の際は受診結果について、その都度互いに共有している。	○	○	○		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は情報提供を行い、本人の状態を伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	管理者・ケアマネが主に病院関係者と連絡をとり合いながら、随時家族とも連絡を取っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護職員は日々の気づきや状態を協力医に報告し、アドバイス・指示を頂いている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医に24時間いつでも連絡ができる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日健康チェック表にバイタルサイン測定と排便状況を記録し確認することで、体調の変化や早期発見ができ治療に繋がることができている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	お薬の処方があった際は利用者様お一人おひとりのお薬情報を全職員が目を通して見ている。注意事項等は申し送り等で周知している。追加の処方があった際は服薬後の状態観察を行い、記録に残している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬剤管理指導のもと、薬剤師が処方薬をユニットごとにお薬ボックスにセットしている。誤薬防止については処方薬を小分け袋に各利用者の服薬時点ごとに入れている。服薬時には名前、用法を読み上げ飲んで頂き服薬確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	本人の状態観察は全職員で行っており、状態の変化があった際は処方元医師に相談し調整している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化の段階ごとに本人家族と話し合い、要望意向や方針を共有している。				事業所では、看取り指針を整備したり、看取り加算を算定したりすることはしておらず、以前の療養病棟の入院患者を事業所の利用者として引き継ぎ、重度の利用者も多く、家族等の意向に沿って、看取り支援が行われている。また、状態に変化が生じた場合には、利用者や家族、主治医、協力医療機関、職員を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、准看護師の資格を持つ介護職員が多く、夜勤の際に配置をしている。加えて、建物の1階には内科病院が併設され、医師が同じ建物の3階フロアに居住していることから、24時間の医療連携体制が図られ、いつでも対応してくれるなど、利用者や家族、職員には安心感がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態変化時、重篤化状態時には、本人・家族、協力医療機関、薬剤師、職員が情報共有し、相談を重ね方針を決定している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思いや力量の把握に努め、話し合い、必要に応じ主治医のアドバイスを頂きながら、どこまでの支援ができるかを見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時及び、状態変化した場合に、主治医・家族を含めた話し合いの中で、グループホームでできる事・できない事の説明を行っている。ご家族にはご理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	今後起こりうる変化については、主治医や看護師より都度説明を受けており、いつでも連絡できるよう連携をとっており、職員間で情報共有している。変化があれば、主治医と話し合いを行い、ご家族へ報告を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族に電話で状況・状態報告を行っている。対面での面会を希望される時は抗原検査を受けて頂いている。時には事業所より面会の依頼をすることもある。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的には学んでいないが、参考資料を基にミーティングの際に感染症予防研修で学びの機会を設けている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症対策のマニュアルは作成しているが、日ごからの訓練はできていない。コロナ感染症発生を他の施設で経験した職員がおり、発生した場合の手順を理解している為感染予防の参考にしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行政や医療機関、テレビや新聞などから情報を入手し情報を共有している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	利用者様・職員は手洗いうがいはこまめに行っており、来訪者についてもマスク着用、消毒、来訪者名簿への記入等協力を頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ禍ではありますが気軽に面会して頂く毎週日面会の時間をとっており、気軽に面会して頂けるよう心がけている。状態変化だけでなく、折々で生活の様子をお伝えしている。イベント等で必要なものを持参して頂くなど協力を頂いている。	/	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、コロナの5類移行後も、感染対策で面会制限が継続され、家族を交えた活動や家族同士の交流の場の提供までは行われていない。管理者は、「今年の春に、現地で家族と待ち合わせて、花見をしたい」と考えていることもあり、家族との交流できる機会が増やして頂けるような工夫や取り組みが行われていくことも期待される。少しずつ感染対策が緩和され、訪問調査月に玄関スペースでの対面の面会が可能になったばかりである。日常的に利用者の日々の暮らしの様子が家族に伝えられるように、SNSなどを活用して連絡を取り合う場合もあるが、半数程度の家族の利用に留まっている。管理者は、写真などを添えた便りや広報誌などの発行を検討しているが、実現までには至っていないため、引き続き取り組んでいくことも期待される。また、事業所の運営上の事柄や職員の異動などを運営推進会議の中で報告しているものの、会議に参加する家族は1名のみで留まっており、他の家族に報告することができていないため、全ての家族に報告をするなど、理解が得られるように周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。家族の来訪時や電話連絡時などを活用して、職員は積極的に声をかけて、気がかりなことなどを聞くようにしている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	新型コロナウイルス感染予防対策にて現在も面会制限を行っている状況で今年度ご家族を交えての行事は行っていない。	×	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	ご家族で可能な方はSNSで様子をお知らせしたり、年間行事の際の写真を送付するなど日常の様子をお知らせしている。	○	/	/		△
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居時、モニタリングにより本人の生活歴を把握し、家族との関係の理解に努め、必要事項を共有している。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	事業所の運営に関する事柄、出来事について一斉に文章等での報告はできていない。	×	/	/		△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	自立支援に向けて日々の支援を行っており、起こりうるリスクに関して職員間で話し合いを行い、ご家族に説明している。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族の来訪時や電話、メールにより気軽に話せる機会を作っている。また近況をお伝えしている。新型コロナウイルス感染予防対策により施設内でゆっくり面会して頂くことは現在できていないが、毎日午後より面会の時間を設けている。	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居時、契約の内容を具体的に説明し、理解、了承を得ている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去についてご本人・ご家族から申し出があった際、次の受け入れ先への情報提供等行いスムーズに移れる様支援している。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時に近隣の住民の方にご挨拶に伺い説明しご理解をいただいている。	/	◎	/	事業所として、令和5年度から自治会に入会し、地域住民の一員として関係性が深められるように取り組んでいる。秋祭りの際に、事業所に神輿の来訪があったり、ハロウィンの際に、保育園の園児が大勢集まり、利用者からお菓子をプレゼントしたりするなど、交流を楽しむことができている。また、地域アンケートから、「地域の清掃作業の際に、管理者に早朝から終了まで参加協力をしていただき、大変助かりました」などの感謝のコメントが寄せられている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあい、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナ禍で積極的な行事の参加はできていないが、近隣の保育園の行事に参加する。今年度より自治会へ入会し、地域住民として地域の行事に参加している。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	利用者様と地域との直接の関わりは今後の課題であるが事業所としてのご理解頂いている実感がある。また推進会議で来所頂いた際や、地域の行事に参加した際に地域の方々には温かく見守って頂いている。	/	/	/		/
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	運営推進会議に参加して下さる方は気軽に立ち寄って下さる。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶を交わす程度で気軽に立ち寄ったり、日常的なおつきあいにまでは至っていない。今後の課題である。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	利用者様の日常的な活動の支援等までは働きかけることはできていない。新型コロナウイルス感染防止対策中の為ボランティアの受け入れもできていない。	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	理美容師に必要時来て頂き、散髪の支援を受けている。米・野菜・調味料など地域の商店で購入している。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	毎回地域の方が参加して下さり、利用者家族の方に声をかけて参加して頂いている。	×	/	△	事業所では、運営推進会議を対面で開催することができているものの、利用者の参加はなく、1名の家族の参加のみに留まっている。また、会議では、利用者の様子やサービスの実態などの詳しい報告を行い、会議で出された意見や提案を真摯に受け止めて実践に活かしているが、一部の家族の参加に留まっているため、会議の内容が家族に伝わっておらず、全ての家族に参加協力を呼びかけたり、終了後に会議録を送付したり、会議の意義や目的を周知するなど、理解が得られるような周知方法の工夫や取り組みが行われることも望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議において毎回利用者の生活の状況、グループホームの取り組みについてレジュメに沿って報告している。外部評価の内容について報告している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせてメンバーを増やすには至っていないが、来年度参加して頂けるようお願いしている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を事務所等に掲げ、理念に沿った行動ができるよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	利用者、家族、地域の人達に理念を改めて伝える必要がある。	×	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内研修に関しては基本全員でできるよう予定の設定をしている。自己研鑽による研修についても代表者の理解あり。	/	/	/	法人の規模が大きく、代表者が来訪する機会はほとんどないが、管理者は職員との個別面談を実施するほか、日頃から意見を聞くことができおり、管理者を通して、代表者に意見や要望等を伝えることができるようになっている。法人として、事業所の設備改修や備品購入に対応してくれたり、職員の資格取得等に全面的に協力してくれたりするなど、職員は「働きやすい環境である」と感じている。また、職員ミーティングの中で、勉強会を実施するなど、職員のスキルアップにも繋げている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	チームの方向性が同じになるよう取り組んでいる。現場で起こる様々な問題を取り上げミーティング等で研修を行っている。資格等取得のための研修を受ける際は勤務の調整を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	キャリアパスの導入、処遇改善加算・特定処遇改善加算及び賞与に関して、管理者が職員の就労能力を鑑み分配する仕組みとなっている。また年1回人事評価シートを全ての職員が記載し提出。管理者は、代表取締役が評価、職員は管理者が評価し昇給の基準としている。福利厚生についても、職員の職場環境における要望等は、管理者会議で報告し必要な事項については改善している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	異業種交流や同業者との交流や全国介護事業者連盟の参加によりネットワーク作りを行っている。職員への情報提供も管理者会議を通じて行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面談の機会を設け職員からの仕事や人に関する相談を受ける。(管理者・顧問)必要時代表取締役役に報告しストレス回避に向けて取り組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	現在は主に内部研修を行っており、毎月身体拘束廃止・虐待防止についての会議も行っており繰り返し学び理解を深めている。	/	/	○	2か月に1回、身体拘束や虐待の防止などの研修を実施するとともに、毎月行う職員ミーティングを活用して、職員間で不適切な言動などの話し合いをしている。気になる言動が見られた場合には、職員同士で相互に注意し合えるようになってきている。また、不適切な言動が見られた場合には、職員は管理者に報告し、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をするとともに、必要に応じて、職員間で話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送り時に日々のケアについて話し合いをしている。日常的に場面場面でケアについて振り返りその都度話し合うことを意識している。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	フロアの様子を観察し、疲労やストレスから不適切なケアに至っていないか注意を払っている。不適切なケアがみられた際は都度状況の確認をし傾聴している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的実施している身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会や研修会で学ぶ機会を設け、全員が理解できる様努めている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束になりうる不適切なケアに関係する場面があった際は、話し合いや皆で考える機会をもち改善している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	定期的実施している身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会やミーティングの際に点検の機会をもち、日常的にも行っている対応が虐待・身体拘束に当たらないか意識して業務についている。入所時にご家族様へ「身体拘束を行わないケアの取り組みをしている」事の説明は行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	資格取得・資格更新の際に学ぶ機会があるが、全スタッフへの周知はできていない為課題である。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センター、専門機関とはすぐに連携がとれる体制である。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員がいつでも学習できるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急処置のマニュアルは作成しているが、十分なものではない。また初期対応の訓練に関しては今後行って行く必要がある。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生による報告及び報告書作成・提出。提出時、事故の状況に関して、振り返り・検証等を行っている。職員間で検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個々の利用者のリスクについては、日々の申し送りやミーティング等で確認し事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルはあるが、対応は主に管理者が行っており、職員は行っていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	管理者が対応している。必要な際は市町にも相談・報告している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情が寄せられた際は、速やかに対応し、その後も良好な関係性が築けるよう慎重に対処している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	契約時に利用者・家族が意見・苦情・要望があれば遠慮することなく言って頂くようお願いしており、事業所としても何かお気づきの点があれば言っていたくより良い事業所にしていくに心がけている。今後ご家族様に運営推進会議に積極的に参加して頂けるよう働きかける必要がある。	◎	/	○	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを図るように努め、意見や要望等を気軽に言い合える関係性ができてきている。利用者には、日々の会話の中で、意見を聞いたり、表情や言動からくみ取るように努めている。家族からは、電話やSNSの連絡手段を活用して、声をかけをすることができている。また、日常的に管理者は職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を伝えてもらうなど、出された意見を検討して、利用者本位の支援に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初にご説明した後は利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供は行っていないが、ご家族様と話す機会がある時々に遠慮なく申し出て頂くことをお伝えしている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	必要時対応できる体制あり。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的なミーティングの開催や、職員一人ひとりが意見や提案を言える環境づくりをしている。個別に意見を聞いたり、書面により問い、自由に意見を管理者に伝えることができる環境づくりをしている。利用者様本位の支援につながるよう改善に繋げている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	今後サービスの向上の為自己評価は必要。	/	/	/	サービスの評価結果や目標達成計画等は、運営推進会議の中で報告をしているが、会議に参加する家族は限られ、家族に周知を図ることまではできていない。今後は、目標達成に向けた取り組みの状況を会議の中で報告して、参加メンバーから意見をもらったり、会議の内容を全ての家族に報告したり、取り組み状況のモニターに協力してもらうなど、サービス評価の取り組みに対して、理解が得られるような工夫した取り組みが行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を行うことで、「できていないこと」「できていないこと」が明確になり、「できていないこと」を早急に改善することが必要。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	今回の外部評価を通じて運営推進会議で報告し今後の取り組みに繋げていきたい。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	今回、評価結果を踏まえ、目標達成計画を実践し成果について事業所及び運営推進会議にて報告していくようにする。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害対策マニュアル作成し周知している。				事業所では、様々な災害マニュアルを作成するとともに、年2回火災などの想定した避難訓練を実施している。川沿いある建物は、水害が想定されるハザードマップの対象区域にあり、水害の発生時には、建物の2階への垂直非難を想定している。また、避難訓練の様子を運営推進会議の中で報告しているものの、一部の家族の参加に限られ、重度の利用者も多くいるため、地域住民や家族の理解や協力が得られるように周知するとともに、会議を活用して、安心安全な取り組みを話し合ったり、家族や地域住民と合同訓練を実施したり、地域の防災訓練へ参加協力するなど、少しずつ地域との協力支援体制が構築されていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	×	災害時マニュアルの整備が必要。今後の課題。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	保安協会の定期点検を受けている。非常用食料や備品・物品類等の整備もする必要がある。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	災害時に備えての訓練等は、地区・近隣住民との連携が必要と考えているが、近隣住民も高齢化が進んでいる状況。運営推進会議を通して地域住民と相談している。	×	△	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の防災訓練があれば積極的に参加しネットワーク作りをしたいと思う。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症ケアについて研修の機会があったが、地域への発信はできていない。				グループホームとしての歴史はあるが、経営移管されて2年足らずで、コロナ禍や感染対策が続く、積極的な相談機能の広報啓発までには至っていない。今後、管理者は、「地域への相談機能等の発信に取り組んでいきたい」と考えている。また、法人では技能実習生の受け入れに積極的に協力するとともに、法人内の他の事業所等と協力をしながら、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と連携を図ることができている。今後は、地域の他の事業所等と連携して、地域活動を協働していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	隣接する協力医から問い合わせがあり、入所相談を受けることがある。また電話での問い合わせもあり相談支援を行っている。介護のことで気軽に相談に立ち寄って頂けるようポスター等を作成し、相談支援を行っていることを知っていただく取り組みをしている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	新型コロナウイルス感染症予防対策中であり地域の人が集う場所として解放、活用はできていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れてきていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	市のクリーンアップ運動に参加。年2回程度海ごみゼロウイークへの参加。			○	